



— 関崎海星館に務めるきっかけは？ 小学生の頃から星が大好きで、よく星の図鑑を読んでいました。星や宇宙につながる仕事をしたい！と夢見ていましたが、家庭の事情で看護師になりました。看護師として働き、結婚して子どもができ、このまま夢にフタをしたまま生きていくのかな…と思っていた時、小惑星探査機『はやぶさ』が地球に帰ってきたことに刺激を受け、「たった一度の人生、このままじゃダメだ！」と改めて星の勉強を始めました。自分の子どもが宇宙少年団に入っていて、団長だった川田館長と知り合ったことがきっかけとなり、看護師を辞めて、2014年に海星館に入社しました。

— 星の魅力とは？ 星はただ見ているだけでもキレイですが、星について知れば知るほどより楽しくなります。パッと見ると平面的に夜空に張り付いて見える星たちですが、それぞれ地球との距離は異なります。見ている星の光は大昔の光で、想いを馳せると距離や時空を超えてスケールの大きな気持ちになれます。私は文系なので想像力をふくらませて見えています。昔の人も星を見ていたんだなと思うと楽しいですよ。

— どんな仕事をしていますか？ デスクワークがメインです。館内の展示物を作ったり、年間のイベントスケジュールを企画しています。また、小学生にも星の魅力が伝わるように『ほしぞら新聞』を作って大分市内の学校に配布しています。新聞は星に興味がない人にも興味を持っていただけるように楽しく分かりやすく心をかけて書いています。また絵を描くのが好きなので、海星館のキャラクターのมาสコットキャラクターのドリムくんを描きました。大分県は鹿児島県のロケットの打ち上げが大分県全域で肉眼で見ることができ、大分空港が宇宙空港になったりと、宇宙との関わりが深い所です。大分県と星・宇宙との架け橋となれるように、職員一同、日々頑張っています！ぜひ関崎海星館にお越しください！



大分の語り部

大分の文化を未来に語りつなぐフリーペーパー



大分の星の語り部

関崎海星館 館長 川田 政昭

複雑な設定不要
高速かつ正確
通知機能あり
検温と消毒が一体

ランゲート
LANCEGATE
非接触検温機 + 非接触消毒液噴射機能
一体化した新型感染症対策機器
体温異常者を検知するとアプリで管理者にすぐに通知

お問合せ
株式会社ワンストップ・イノベーション
☎ 03-3527-3155 (代表)
✉ lancegate@onestop-i.co.jp

編集後記 星や宇宙の話を知ると、普段の悩みがいかに小さなものかと感じることができます。コロナ禍で世界は大きく変化していますが、夜空は変わらず美しく星たちは輝いています。下を向かず上を向いていきたいと思いました。(編集長 カボスひろし)

大分の語り部 vol.07

発行日：2021年1月1日(金)
制作：Cabooosu (カボース)
編集長：カボスひろし
WEB：https://oita.link



■ 関崎海星館 館長 川田 政昭

★ 2015年に大分市生涯学習施設「関崎海星館」(大分市佐賀関)の館長に就任。子どもの頃から、星に興味を持ち高校生で星の魅力を語るボランティアを始める。社会人となっても星を語り続け、現在に至っております。夢は必ず叶うをモットーに星の魅力を語り続けている。

01 関崎海星館はどんな施設ですか？

海星館は私を含めて5人の職員で運営しています。私は元カメラ店自営で他のスタッフは、元高校教師、元新聞記者、元看護師、元自動車企業社員と経歴はそれぞれ異なります。5人の共通点は子どもの頃から星が好きだということです。みんなでアイデアを出し合い、それぞれの個性を活かして、星や宇宙の魅力を日々伝えています。館内の展示品を作ったり、星まつわるセミナーを定期的に開催したり、小学校で出張教室を開いたりもしています。

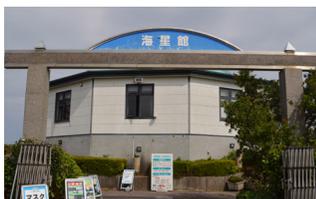
ガチガチのかたい科学館ではなく、温もりがある施設作りを目指しています。おかげさまで、来館者数は年々増え続けて2～3年後には館内をリニューアルする予定です。



02 館長になったいきさつは？

もともと子どもの頃から星が好きで、いつか天文台で働きたいと夢見ていました。しかし、当時大分県には天文台がなくどうしようかなと思っていた高校生の時に転機が訪れました。父親が心臓の手術をした時に先輩たちが輸血に協力してくれました。「この時のお礼にみかんを配ることしかできなかったが、もっと御礼をしたい。どうすればいいでしょうか？」と奉仕活動をしていた神社の宮司さんに相談したところ、「その子たちはあなたの父親を元気をしようとして行動をした。その結果元気になった。だから御礼はもういい。その恩は世間に恩返しなさい。あなたは何かできるの？」と聞かれ、大好きな星の話ならできる！と思い、それ以来、ボランティアで星の話をはじめました。社会人になってからも、休日などは依頼が入ると様々な場所で星の話を続けてきました。そして、2011年に夢だった場所である海星館の職員となりました。

私が自分の実体験をふまえてみなさんに伝えたいことは「夢は裏切らないから、夢を見続け行動することが大切」だということです。



03 星を語る時に大切にしていることは？

星や宇宙のことを遠くの世界のことではなく、身近に感じていただくことです。ですので語る時には星そのものの話だけではなく、関連する話題や雑学も交えて話すように心掛けています。例えば、みんなが大好きな“食”の話題を交えて、宇宙カレー誕生の話をしています。日本人宇宙飛行士の毛利衛さんが初めて宇宙に行った時、過酷な宇宙船内の生活ですごく疲れてカレーを食べたい！と思い、2回目に宇宙に行く時にレトルトのククレカレーを持っていたらNASAの検閲でNGに。市販のレトルトカレーは水気が強すぎて宇宙空間で開けると飛び散ってしまうから。そこで、カレーメーカーのハウスが宇宙カレーを開発し、とろみをつけて水気を減らし、宇宙では味覚が弱くなるので味を濃くして、宇宙カレーが誕生したとか。また、宇宙を身近に感じてもらうために実験のため宇宙で生殖実験されたメダカの子孫を館内で飼育していたりもしています。そして、海星館にご来館いただいた方にアンケートにご協力いただいたら、宇宙まつわる写真をプレゼントしています。海星館でのお話や展示品、写真などをきっかけにちょっとでも興味を持っていただきたいですね。



04 これからの関崎海星館は？

1995年に誕生した海星館も2021年で26年目となります。開館以来がんばってくれている60センチの望遠鏡“愛称：アイ”も、最近ではご機嫌斜めな時もあり、何度かメンテナンスのドッグに入りましたが、そろそろ休ませてあげないといけない時期が来ています。2～3年後の館内リニューアル時には新しい望遠鏡と入れ替え予定で、アイにはちゃんとセレモニーをしてお別れをしてあげたいと思っています。また、リニューアルの時にプラネタリウムを新設予定です。昼間でもプラネタリウムで星空が楽しめるので、私達職員もワクワクしています。海星館のプラネタリウムは、笑ったり子ども達が騒いで見てもいい、赤ちゃんを連れて来てもいい、なんだったらもう寝ちゃってもいい、そんな温もりのあるプラネタリウムにしたいと思っています。これからも、海星館らしくガチガチのかたい科学館ではなく、職員の顔が見え、笑顔あふれる、あったかい施設にしていきたいと思っています。

